

## H29 第1回被災地視察研修 南三陸町・石巻市

4月22日(土)今年度1回目の被災地視察研修が行われました。今回は、30名の宮教大生と1名の帝京大生が参加して、午前中には、南三陸町の戸倉小学校・中学校跡地、防災庁舎、そして志津川中学校の校庭から現在の復興の状況などを視察しました。昼には、4~5人のグループに分かれて、被災地視察研修への参加の動機や午前中研修の振り返り等の話し合いを持ちました。熱心な話し合いで、宮教生の防災意識の高さを感じました。午後からは、石巻市立大川小学校の跡地に行って防災について考えました。



参加学生31名の皆さん



震災時の3D画像を見る



土盛りの中の防災庁舎



ホテルのロビーをお借りした話し合い



多くのことを語りかける大川小跡地



子どもたち・先生方を思う

### 戸倉小学校の児童と保育所の子どもたちの避難経路を

戸倉小学校の児童と保育所の子どもたちと地元の方が避難して多くの方が助かった五十鈴神社までの避難経路を今回の被災地視察研修で初めて実際に歩きました。戸倉小学校は、在校していた91名が五十鈴神社に避難して難をのがれました。学生の、遠くに見える海を見ながら、本当にここまで津波が来たのかという驚きの表情や教師となったときに子どもたちを守るために語り部の伊藤さんの言葉を一生懸命に聞き、記録している姿が印象に残りました。その姿からは教師になるという、そして子どもたちを守るという決意が感じられました。



震災の様子を教えていただいた伊藤さん



高台に向かいます



右のお宅の1階の天井まで津波が



左の木立が五十鈴神社



鳥居の左の石碑まで津波が来た



神社のお社で小さな子どもたちが一夜を

## 被災地視察研修 南三陸町・石巻市 に参加して

宮城教育大学 4年 R・A さん

ニュース、新聞、授業など今まであらゆるところで、震災のことや防災教育について学んできた。自分なりに考えも持っていたつもりだ。

しかし、今回の研修でいかにそれが無知であったか思い知らされた。高台に登り、眺めた海はとても穏やかで美しかった。まさか今自分がいるこの場所が海の脅威にさらされるとは信じ難かった。自分が当時この地域の教員だったら子どもを守ることはできなかつたらと確信するほど、私は防災に無知すぎた。聞くのと実際に現場を踏むのとでは見えるものが全く違う。ここに来ることなく教員になっていたらと思うと本当に恐ろしくなった。

ホテルのロビーにあった資料にこんなことが書いてあった。「人の命を落とすとき、必ずそこには命を守る手がかりがある」ととても重い言葉だった。大川小学校の校舎を見たとき、たった6年前、ここにはたくさんの命と子どもたちの笑顔があったと思うとたまらなく辛くなった。教師も子どもたちも必至に生きることを考えていた。最善を考えていた。後からはこうすればよかったのだと簡単に言えるが、何が正解なのか、その場で答えを出すのは非常に難しい。

教師をめざしている私ができることは何かと考えたとき、答えは一つだった。現場を踏み、当事者に話を聞き、少しでも判断の過程を学ぶことである。そこで学んだことを今ある命を守るために生かすのが私たちの使命だと強く思う。教師という職と命の重みを実感した研修であった。



宮城教育大学 3年 H・N さん

今回、南三陸町と石巻市方面への被災地視察研修は初めて参加し、中には初めて訪れる場所もありました。視察している中で、自らも被災しましたが、知らなかった事実もあり、考えさせられる場面も多々あり、参加して本当によかったと思いました。

この視察の中では全てのことが心に深く刻み込まれましたが、特に印象に残っていることが3つあります。1つ目は、戸倉小学校や保育園の子どもたちが五十鈴神社に避難したという話です。地元に住む教員の主張によって、五十鈴神社に避難し、多くの命を救うことができたということ、ただただすごいと思いました。それと同時に、地元の地形や歴史をよく知らなければならぬのだと思いました。知ることで、救われる命の数も大きく変わってくるのだと思いました。

2つ目は、高野会館で従業員が「生きたかったら残れ！」と言って、震災後パニックになっている人たちを再び上の階に戻したことです。経験したことのない大きな揺れのあと、何が正しいのか分からない中、あの判断を下し、行動に移すのはとても勇気のいることだったと思います。

3つ目は、大川小学校です。私は、初めて大川小学校に来ました。引率の先生のお話で「どんなときにも最善を尽くすという事が大切である」ということがあった。私が教員になったとき非常事態に遭遇したら最善を尽くせるのだろうか、児童の命を守る判断はできるのだろうかと校舎や慰霊碑を見ながら考えました。当時の様子を考えましたが、北上川から津波が来て校舎をのみこむという情景は想像できませんでした。大川小学校で感じたこと、考えたこと、胸がとても苦しくなったことを忘れず、このような悲劇を繰り返してはならないのだという自覚をもって生きなければならないと思いました。そして、このことを次世代へ伝えていかなければと思いました。

児童を守り、子どもが自分自身の命を守れるような力を育てられる教員を目指して、これからもたくさんのことを学んでいきたいと思っています。

今回このような貴重な機会を提供して下さったたくさんの方々へ深く感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。

